

「当たり前」を見直すプロジェクト

～日常の気づきから共生社会を考える～

1. 事業趣旨：背景と私たちが抱える課題

社会背景

障害者差別解消法に基づく「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が求められています。

また、障がい福祉計画では、「地域で安心して楽しく暮らすことができるよう、支援の仕組みと生活の場を整える」ことを基本目標としています。

「自分事」化の難しさ

合理的配慮や差別の解消は、制度や事例を座学で学ぶだけでは「自分事」として捉えにくいものです。

2. 本プロジェクトの目的

「ともに体験し、ともに対話し、気づき合う」



- ✓ お互いの立場や困りごとへの理解を深める
- ✓ 「合理的配慮」や「建設的対話」の重要性を体感
- ✓ 日常生活の中にある「見えにくい壁」に気づく
- ✓ 誰もが参加しやすい地域づくりにつなげる

3. 基本コンセプト：日常の「当たり前」を見直す

私たちが無意識に行っている行動や習慣は、
誰かにとっての「高い障壁」になっている可能性があります。

🍴 飲食店でメニューを選び、食事をする事

🎬 映画を観て、感想を言い合う事

🛒 買い物をする事

🐾 地域の行事、講座、会議に参加すること

→ これらの日常をテーマに「何が壁か」「どう工夫できるか」を
共に考えます。



4. 実施方法：実践を重ねる5つのプロセス



0
1 テーマ設定

0
2 企画・準備

0
3 実践（体験）

0
4 振り返り（対話）

0
5 発信・共有

5. 第1弾テーマ: みんなで懇親会を開く

当たり前の「食事会」とは

誰もが身近に経験する「飲食や交流」の場。

しかし、そこには多くの壁が隠れている可能性が。。

会場へのアクセス

注文のハードル

環境要因

関係性の構築



6. プロジェクトがもたらす期待される効果



障がいのある人

自身の経験や困りごとを「伝える」機会になります。

また、地域社会との心の距離を縮め、相互理解を進めることができます。



障がいのない人

見えづらかった壁や必要な配慮を、具体的に知ることができ、自身の行動や日常生活の慣習を振り返るきっかけとなります。



地域社会への貢献

部会での対話を発信することで合理的配慮の理解が深まり、誰もが参加しやすい地域の環境づくり・「共生社会」への意識づくりにつながります。

7. 専門部会におけるプロジェクトの位置づけ

障がい者差別解消支援専門部会での所掌

本プロジェクトが担う「実践的な役割」

障がい者差別の解消に資する具体的な取組

具体的な事例から実際の日常生活で自分事として認識し、体験型アプローチで課題に取り組んでいきます。

障がい特性の理解に資する研修・啓発

プロジェクトを通じて得られたリアルな気づきを分かりやすくまとめ、地域への啓発や情報発信につなげることを目指します。

8. 私たちがめざす未来の姿

～「支える側」と「支えられる側」という枠組みを超えて～

特別な場面ではなく、日々の何気ない生活の中で自然に関わり合い、お互いを理解しながら言葉を交わし合える関係性～共生社会～を目指します。



ご清聴ありがとうございました